

[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

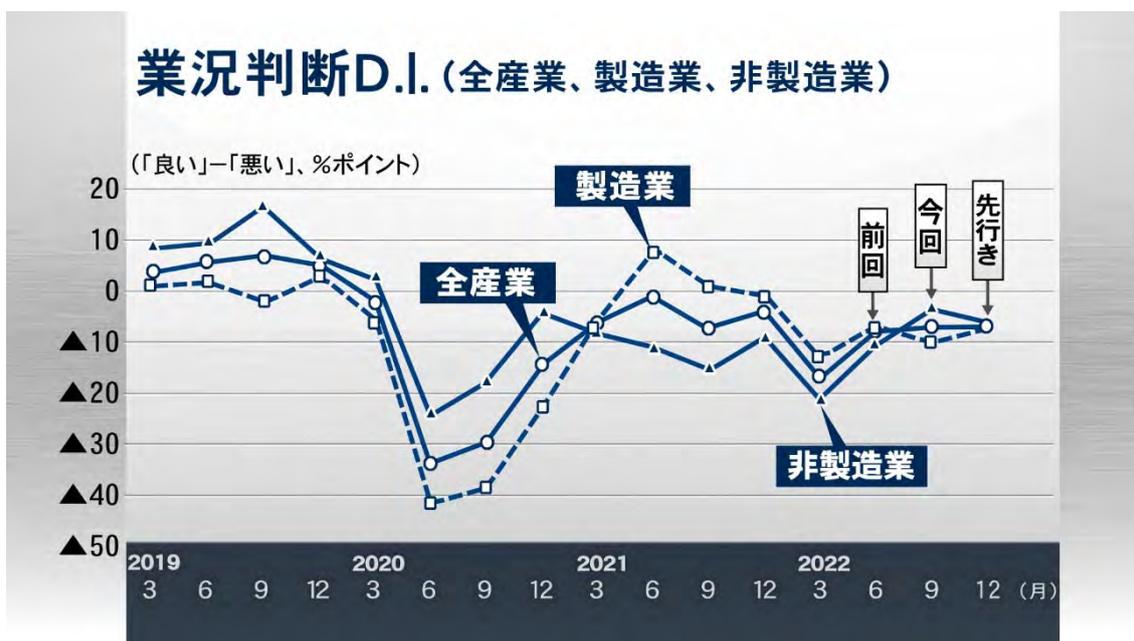
[放送日]2022年10月21日

[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) コメントータに専門分野のお話をうかがう『プラスオピニオン』のコーナーです。日本銀行前橋支店長の肥後秀明さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(肥後支店長) よろしくお願ひ致します。日本銀行では、10月3日に「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の現状と先行きについてご説明したいと思います。

まず、こちらのフリップをご覧ください。これは、景気が「良い」と答えた企業の割合から、「悪い」と答えた企業の割合を引いた、業況判断D.I.という指標です。この数値が大きくなるほど、企業の景況感は改善していることを示しています。



(キャスター) 今回の調査では、どのような特徴がみられましたか。

(肥後支店長) はい。前回の6月調査では、製造業、非製造業どちらも改善しました。もっとも、今回の9月調査では、非製造業は前回に引き続き改善しましたが、製造業は逆に悪化しています。この結果、全産業では1ポイントの小幅改善となりました。

(キャスター) 製造業と非製造業での違いを詳しく教えてください。

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。

| 業況判断D.I. (業種別) | | 前回 22/6月 | 今回 22/9月 | 変化幅 | 企業のコメント |
|-------------------|-----------|-------------|-------------|-----|---------------------------------|
| 全産業 | | ▲9 | ▲8 | 1 | |
| 製造業 | 自動車 | ▲42 | ▲26 | 16 | 自動車向けの部品在庫が積み上がり 新規受注が減少している |
| | 化学 | 29 | 15 | ▲14 | |
| | 鉄鋼 | 16 | 0 | ▲16 | |
| | 非鉄金属 | 16 | ▲33 | ▲49 | |
| 非製造業 | | ▲11 | ▲4 | 7 | |
| 非製造業 | 建設 | ▲5 | ▲15 | ▲10 | 建築資材価格、電気料金が上昇し コスト高になっている |
| | 小売 | ▲8 | ▲23 | ▲15 | |
| | 対個人サービス | ▲16 | 16 | 32 | 3年振りに行動制限が無い 夏休みとなり人流が回復 |
| | 宿泊・飲食サービス | 0 | 75 | 75 | |

(肥後支店長) 左側に主な業種別の業況判断D.I.の変化、右側にその理由を記載しています。製造業では、自動車が、中国の上海ロックダウンの解除で供給制約が緩和されたため、D.I.は▲42から▲26と、16ポイント改善しました。もっとも、化学・鉄鋼・非鉄金属といった素材産業では、自動車向けの部品在庫が積み上がり、新規受注が減少しているため、D.I.は悪化しました。製造業全体ではD.I.は▲8から▲11と3ポイントとの悪化となりました。

(キャスター) 非製造業はどうでしょうか。

(肥後支店長) 非製造業では、建設や小売で、建築資材価格、電気料金が上昇しコスト高になっているため、D.I.が悪化しました。もっとも、「対個人サービス」や「宿泊・飲食サービス」では、3年振りに行動制限がない夏休みとなり、人流が回復したことで、D.I.は大幅に上昇しました。非製造業全体では、▲11から▲4と7ポイントの改善となりました。

(キャスター) 最近の物価上昇は、企業にどのような影響を与えているのでしょうか。

(肥後支店長) はい。こちらのフリップをご覧ください。



(肥後支店長) このグラフは、企業の仕入価格と販売価格について、「上昇」と回答した企業の割合から、「下落」と回答した企業の割合を引いたD.I.の推移です。数字が大きいほど「上昇」の動きが強いことを示しています。仕入価格D.I.は今回の9月調査では76ポイントと、前回に引き続き非常に高い水準になりました。非常に多くの企業で仕入価格が上昇していることが分かります。

(キャスター) このグラフでは、販売価格も上がっていますよね。

(肥後支店長) はい。販売価格のD.I.も上昇を続けています。企業が仕入価格の上昇を、販売価格へ転嫁する動きが続いていることを示しています。もっとも、仕入価格D.I.の方がまだ高い水準にあることから、全体として利益の悪化要因として働いていると思われます。

(キャスター) 先行きの見方はどうでしょうか。

(肥後支店長) 先行きについては、仕入価格D.I.は67ポイントと低下が見込まれています。ただ、それでも、販売価格D.I.の36ポイントからは大幅に高い水準ですので、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁しきれずに、収益悪化が続く可能性があると思われます。

(キャスター) こうした状況のもとで、企業の経営にはどのような影響がありますか。

2022年度・売上計画

(前年度比、%)

| | 2022年度 計画 | 前回調査比 修正率 | 修正に関する企業のコメント |
|------|--------------|--------------|--|
| | | | |
| 売上高 | 20.2 | 0.3 | |
| 製造業 | 29.3 | 0.4 | 為替円安による上方修正(自動車) 自動車減産を受けた下方修正(自動車) |
| 非製造業 | 8.7 | 0.1 | 販売価格が上昇(電気・ガス、卸売) 自動車減産に伴う販売減少(小売) |

(肥後支店長) はい。こちらのフリップをご覧ください。まず売上計画については、前回調査からの修正率をみますと、製造業は+0.4%、非製造業は+0.1%と、どちらも小幅の上方修正となりました。製造業・非製造業ともに、自動車の減産を受けた売上高の下方修正はありましたが、製造業では為替円安による円換算での売上増加により自動車で上方修正となったほか、非製造業では、電気・ガス、卸売で販売価格が上昇したため、全体では小幅の上方修正になりました。

(キャスター) 売上高全体ではあまり影響していないんですね。

(肥後支店長) そうです。もっとも、利益面では製造業、非製造業で逆の動きとなりました。次のフリップをご覧ください。

2022年度・経常利益計画

(前年度比、%)

| | 2022年度 計画 | 前回調査比 修正率 | 修正に関する企業のコメント |
|-------------|--------------|--------------|---|
| 経常利益 | 16.4 | ▲0.2 | |
| 製造業 | 42.6 | 3.9 | 為替円安による上方修正(自動車) 原材料高、エネルギー高による収益悪化 (食品、金属製品、自動車) |
| 非製造業 | 1.8 | ▲3.2 | エネルギー高による光熱費上昇(小売) コスト上昇分を十分に転嫁できず (運輸・電気・ガス・建設) |

(肥後支店長) 経常利益の前回調査からの修正率は、製造業は+3.9%の上方修正、非製造業は▲3.2%の下方修正と、逆の動きになりました。原材料やエネルギー高による経常利益の下方修正は、製造業、非製造業どちらにも見られましたが、製造業では、為替円安によって自動車が上方修正したため、製造業全体では+3.9%の上方修正となりました。一方、非製造業は為替要因による上方修正がほとんどないため、▲3.2%の下方修正とコスト高による下押しが表れた結果となりました。製造業、非製造業を合わせた全産業でも、▲0.2%と僅かながら下方修正となりました。

(キャスター) 企業の利益水準の低下はどのような影響を与えるのでしょうか。

2022年度・設備投資計画

(前年度比、%)

| | 2022年度 計画 | 前回調査比 修正率 | 修正に関する企業のコメント |
|-------------|--------------|--------------|---|
| | 設備投資額 | 28.0 | |
| 製造業 | 50.5 | ▲7.6 | 建築資材や人手の不足による 工事進捗の遅れ(化学) 利益悪化から不要不急の投資を抑制(自動車) |
| 非製造業 | ▲5.7 | ▲1.6 | 利益悪化を受けて店舗改装等を延期(小売) 車両更新を先送り(運輸) |

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。利益が悪化しているため、設備投資を遅らせたり、抑制する動きが出ています。2022年度の全産業の設備投資計画は、前年比では+28.0%と大幅な増加見通しですが、前回調査から▲5.9%の下方修正となりました。製造業、非製造業ともに、利益悪化や光熱費等の上昇により設備投資を延期するという動きがみられています。今後の動向を注視する必要があると思います。

(キャスター) それでは、最後に今回の短観結果と今後のポイントについてまとめていただけますか。

(肥後支店長) はい。企業の業況感は、前回調査では製造業、非製造業ともに改善していましたが、今回調査では、改善の動きが弱くなりました。

先行きは、原材料や光熱費などのコスト上昇による利益水準の悪化を見込む声が、業種を問わず聞こえています。これが設備投資計画の下方修正というかたちで影響がみられている点には留意する必要があります。企業がコストの上昇分を販売価格へ転嫁する動きが進めば、利益は改善しますが、進まない場合は、設備投資の先送りだけでなく、雇用・賃金情勢の悪化などに繋がる可能性もあります。

日銀前橋支店としても、こうした企業経営を巡る事業環境の変化について、プラス、マイナスの両方の面から今後も注意深くみていきたいと思っております。

(キャスター) プラスオピニオン、今日は、『日銀短観でみる県内経済の足取り』をテーマに、日本銀行前橋支店長の肥後秀明さんにお話をうかがいました。ありがとうございました。

(肥後支店長) ありがとうございました。

以 上